



公募テーマ

秋の大量出没期までに、日常生活圏に近づくクマをAIカメラにより自動判別し、関係者へ迅速に通知したい



背景・課題

■ 具体的な課題

秋の大量出没期までに、日常生活圏に近づくクマの早期警戒網を構築するに当たり、クマの生息域である中山間地域と日常生活圏の境界にカメラ等を設置し、境界線を越えたクマをAIにより自動判別し、関係者へ迅速に通知したい。

■ 背景

現状トレイルカメラ等で撮影している地域もあるものの、撮影データの回収・判別には時間を要する。また、「TOKYOくまっぷ」により出没情報を公開してるものの、発見・覚知から数時間～数日のタイムラグが生じている。

■ 影響

近年、全国で市街地へのクマ出没や人身被害が頻発しており、都内でも、これまで例がない学校や民家等が隣接する地域での出没や山林における人身被害が発生

解決方針

クマの生息域である中山間地域と日常生活圏の境界にカメラ等を設置し、境界線を越えたクマをAIにより自動判別し、関係者へ通知する仕組みを構築

期待する成果

住民の安全安心の確保のため、関係者（都、地元自治体、ハンター、警察等）の迅速な対応に繋がるとともに、住民へ早期に注意喚起が可能となる。

諸条件

- 導入時期：秋の大量出没期（11月）までに実装、運用可能とする
- 想定施設：奥多摩湖畔公園山のふるさと村
※中山間地域と日常生活圏の境界ではないが、クマの生息地にあるキャンプ場で、都管理施設
- 導入規模：クマが判別可能なAIカメラ、通信機器（必要な場合）、通信システム一式
※台数については、AIカメラや通信機器の性能のほか、ふるさと村の現地確認等を踏まえ別途相談

予算規模

大規模型（上限3,000万円）

想定スケジュール

- 募集期限
7月13日（月）17時迄
- ピッチ形式の面接審査（書類審査を通過した企業のみ）
7月中旬～下旬
※書類審査を通過した企業には、別途日程の詳細をご連絡いたします。
- 契約締結、プロダクト等の導入
8月末

現場からのコメント

- 留意事項・希望事項
 - ・短期間での設営および撤去が可能であること
 - ・電源等の既存設備条件に適合すること
 - ・電波環境は場所によっては安定しない
（TOKYO Free Wi-Fiが整備されている施設もあり）
 - ・キャンプ場利用者・施設管理者動線を阻害せず、利用者・施設管理者の安全対策が講じられていること

現場情報

※現場への直接連絡はご遠慮ください。

環境局
自然環境部計画課

日常生活圏に近づくクマによる人身被害を防止するため、地域にクマを寄せ付けない環境づくりの注意喚起を実施するとともに、人間とクマの活動領域が大きく重なる新たな状況への対応として、日常生活圏に近づくクマに対する早期警戒の仕組みを構築